

皆さんこんにちは【 T 】です☆

大きなランドセルを背負い我が家の前を歩いて登校している近所の1年生も、だいぶ学校に慣れたのか表情が明るくなってきているように感じます。

この時期になると、我が家の長男が小学校に入学した頃のことを思い出します。うちの息子は入学した頃、恥ずかしながら毎日大きな声で泣きながら登校していたのです。あまりにも大きな声で泣いていたようで、地域の方から学校へ心配の連絡が入ったこともありました。また、朝、起床すると決まったように「お腹が痛い・・・」という長男に、これは何か策を講じなければと妻と相談する毎日でした。

私に取り組んだことは、登校前のキャッチボールと遊びとしてのバドミントンです。体を動かすことが好きだった息子と、少しでも楽しいことをして気持ちを紛らわしてみようということが狙いでした。結果は・・・その瞬間は良かったのですが、改善する様子は見られませんでした。

そこで、妻が筆箱の中に手紙を入れてみようと言うのです。手紙にはこんなことが書かれていました。「今日の給食で一番おいしかったのは何だったかな？帰ったら教えてね☆」もちろん息子はどんな内容が書いてあるか見るまで知りません。

その日、息子は嬉しそうに妻に耳打ちをしていました。「今日はね、カレーがおいしかったよ！」と。手紙は内容を変え、毎日続けました。また、泣かないで登校できたら、自宅のカレンダーにニコニコシールを貼るということもしてみたのです。もちろん、体を動かすことも続けました。そして6月、カレンダーには毎日、ニコニコシールが並ぶようになったのです。



今思えば、息子にとって学校は誰も知らない人ばかりで、また母親から離れての学校生活でもあり大きな不安があったのだと思います。そのような不安な気持ちの中で、毎日筆箱に入っている手紙は母との繋がりであり、息子にとっては母と離れていても安心できる「魔法の手紙」となったのではないかと想像するのです。もちろん、クラスの友達や担任の先生との関わりも大きな力となったことは言うまでもありません。

数年後、ある精神科医の講演資料を目にする機会がありました。現福井大学医学部付属病院子ども心の診療部客員教授の杉山登志郎氏はその資料の中で、「愛着形成は大変に大事なことです。赤ちゃんは0歳後半で探索ができるようになります。探索に出かけて、いろ

んなことをやってみて、うまくいかないと安全基地としてお父さんお母さんのところに舞い戻って、エネルギーチャージをしてまた探索に行くわけです。すると目の前に存在していなくても、不安に襲われなくなってきます。内在化された養育者の内なる眼差しだけで、不安にならなくなる。これが愛着の形成です。」と書かれていました。

この資料を見たとき、息子に手渡していた魔法の手紙は、内在化されている養育者の内なる眼差しをより強化させ、不安な気持ちを抑えるためのアイテムになったのだなと思いついたのです。 【 T 】

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^\_^)/

[kosodatem@pref.iwate.jp](mailto:kosodatem@pref.iwate.jp)

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★